

視察（研修）報告書

2025 年 1 月 30 日

府中市議会議長 様

会派名又は 市民クラブ
議員名 水田豊
土井基司
芝内則明

日 時	2025年1月21日（火曜日）
視察（研修）先	桜川市
視察（研修）項目	重要伝統的建造物群保存地区（真壁地区）の取り組み ・取り組みの経緯（ひな祭り開催の経緯も含めて） ・「桜川市歴史的風致維持向上計画」の概要と重伝建との関係 ・保存地区内や周辺での文化財（建造物）の指定・登録状況
参加者	水田豊 土井基司 芝内則明
視察（研修）内容	1. 重要伝統的建造物群保存地区（真壁地区）の取り組みについて 経過 1993年、ディスカバーまかべ結成・・・現在も活動中 ・案内板の設置、町並みシンポジウムの開催など 1996年、登録文化財制度の創設 1999年、真壁町に対して登録文化財制度の活用を提言 4棟を登録文化財に答申 2001年、真壁町の登録文化財が32棟に（町村で日本一） 2005年、真壁町の登録文化財が104棟に（市町村で第3位） ・現在は、震災により101棟となった 2010年、重要伝統的建造物群保存地区に選定 町並みを活かしたまちづくり 2003年、第1回「真壁のひなまつり」を開催

	<ul style="list-style-type: none"> ・町おこし団体が、「町なかにお雛様を飾ろう」という発想からはじまった。1回目は、40軒であったが2回目以降は、100軒以上が飾られて期間中約6万人の観光客が訪れる。
<p>所 感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重要伝統的建造物群保存地区（真壁地区）に対しての桜川市のスタンスは、町並み保存を通してまちづくりを進められていると感じた。 ・「住民が主役のまちづくり」と位置付けられている。その理由として、伝統的な建造物は住居が多いことを掲げられている。生活されている人がその必要性を感じられ保存活用を理解されているからこそ、真壁地区の保存が進められていると感じた。

視察（研修）報告書

2025 年 1 月 30 日

府中市議会議長 様

会派名又は 市民クラブ
議員名 水田豊
土井基司
芝内則明

日 時	2025年 1 月 22 日（水曜日）
視察（研修）先	山梨県大月市、地方独立行政法人大月市立中央病院
視察（研修）項目	① 独立行政法人移行の理由 ② 病院の財政状況、市から病院に対する繰入れ医業収益の現状（市からの繰入金の有無、繰り入れ基準、病院経営、繰り入れに対する議会、議員からの質疑の有無） ③ 医師確保のとりくみ ④ 県の地域医療構想調整会議との関係
参加者	水田豊 土井基司 芝内則明
視察（研修）内容	(1) 1962 年 9 月 1 日大月市立市民病院として開設 (2) 2019 年 4 月 1 日地方独立行政法人大月市立中央病院へ移行 (3) 2019 病床変更 一般 151、療養 22、地域包括ケア 20、感染症 4 (4) 2023 年（令和 5 年）4 月山梨大学附属病院東部地域医療教育センター開設（併設）

所	<p data-bbox="414 197 454 235">感</p> <p data-bbox="486 197 1324 291">鈴木計(けい)充(じゅ)氏、地方独立行政法人大月市立中央病企画課長</p> <p data-bbox="486 302 1276 347">藤本典久氏、大月市市民生活部子育て健康課長が対応。</p> <p data-bbox="486 414 1324 504">大月市2万1500人の市で、病院の経営は財政的にはかなりしんどいのではないかと思った。</p> <p data-bbox="486 515 1324 974">かつて病院の医師は、東京の東京女子医大から派遣を受けていて出産もできていたが、派遣が難しくなってきた同大学とは関係を断ち、その後の変遷の中で山梨大学医学部との連携ができ、いまは同大学との協定のなかで医師派遣を受けている。そうした経緯のなかで病院の独法化となったが、法人の理事長、病院長とも山梨大学医学部からの就任となっていて、結果的にはそれが良かった。山梨県医療政策のつながりと医師の確保の強化ができていると感じられた。</p> <p data-bbox="486 996 1324 1243">市からの病院への繰り出しは、3億円を目安に2023年度決算では3億4千万となっているが、病院経営のなかで現金の資金繰りに余裕がないのは府中市と同様である。苦しい経営ながら市としての病院の存続に関しては議会、市民との合意はできていると話聞いて感じた。</p>
---	---

視察（研修）報告書

2025 年 1月 30日

府中市議会議長 様

会派名又は 市民クラブ
議員名 水田豊
土井基司
芝内則明

日 時	2025年 1 月 23 日（木曜日）
視察（研修）先	埼玉県北本市
視察（研修）項目	シティプロモーションの推進について
参 加 者	水田豊 土井基司 芝内則明
視察（研修）内容	<p>1. シティプロモーションについて</p> <p>対外的にアピールするだけでなく、住んでいる市民にアピールする＝市を好きになってもらうことを中心に据えた市民参画型の取り組みとして推進している。</p> <p>コンセプトの中心は「&green一豊かな緑に囲まれたゆったりとしたまちの中で、あたらしい暮らしを一」と定めて、市役所芝生広場で定期的に「&green market」を開催している。マーケットを通じて、地域の活性化を図るため、地域団体向けの「マーケットの学校」を開催し、地域のマーケットの立ち上げを支援している。現在、年100回以上市内でマーケットが開催されている。</p> <p>対外的なアピールでは、ふるさと納税に関して、寄付者全員に、市の取り組みを紹介したパンフレットを送付し、「感謝ツアー」を案内するなど、特徴的な取り組みを行なっている。ツアーには毎年数十人参加している。</p> <p>これらの取り組みの成果を検証するために、mGAP（修正地域参画総量指標）という指標を用いている。市民アンケートで地域推奨量、地域参加量、地域感謝量のそれぞれについて、11段階の評価をたずね、0～5をマイナス、8～10をプラスでカウントしてその差に人口を掛けて算出して</p>

	<p>いる。その数値が次第に改善しており、それに符合するように、十数年ぶりに社会増に転じている。</p>
所 感	<p>施策に対する検証の必要性を常々感じているが、具体的な方法がなかなかないのが現状である。北本市の検証成果を注視していきたい。</p> <p>ふるさと納税について、単なる返礼品だけの関係ではなく、関係人口、移住につながるような取り組みを行なっており、府中市でも検討していくべきではないか。</p>